第３回 One Minute Video コンテスト

ワン ミニッツ ビデオ

2014 年 8 月 18 日（金）

主催　公益財団法人　日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）

後援　文部科学省

unite for children

unicef

プログラム

12:30　コンテスト受付

13:00　主催者挨拶

　　審査員の紹介、One Minute Video プロジェクトの紹介

13:10　入賞作品　No.1～10　上映

13:45　入賞作品　No.11～20　上映

14:20　入賞作品　No.21～30　上映

14:55　審査中特別イベント（休憩）

15:25　授賞式

14:55 ～　審査中特別イベント「もうひとつの One Minute Video コンテスト」

本審査とは一味違う切り口で行う、来場者参加方のイベントです。
カテゴリー分けされた作品群の中から、ご来場のみなさまに一つの作品に投票いただき、
最も多くの票を得た作品を各カテゴリーの受賞作品とするものです。
是非ご参加ください！

One Minute Video とは

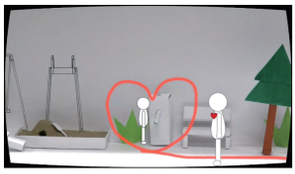
One Minute Video は、１分間の映像制作を通して、厳しい状況におかれている子どもたちなど、世界中の子どもたちが自分たちのメッセージを世界へ向けて発信し、自己表現力を養い、国籍を越えて興味は意見、夢や希望を分かち合う活動です。
One Minute Video プロジェクトは、The European Foundation, The One Minute-Foundation, ユニセフ（国際児童基金）の協力で 2002 年にスタートしました。初めは、紛争などで自分の意見を自由に表現できない子どもたちに、自分の意見や夢を伝えるチャンスを与える目的で始まり、現在まで約100 カ国の 3,000 人以上の子どもたちが参加しました。
ユニセフは多くの国々でOne Minute Videoのワークショップを支援し、世界的にこのプロジェクトを広めるために活動しています。

入賞作品紹介

	タイトル	団体名 / 作者名	所属
1	Can you see them? ～心の目を持とう～	飯村研究室　ムービー制作部「彩」チーム A	熊本県立大学
2	自分から行動しよう！	映像メディア 1 班	福岡県立太宰府高等学校
3	Save Our Planet	APU MOVIE MAKER	立命館アジア太平洋大学
4	先生ちょっと後でいいですか？	情報ビジネス科　1 年 1 組	岩谷学園テクノビジネス横浜保育専門学校
5	オゾン	森田　陽祐	駿河台大学
6	So, What can we do now?	伊藤　大洋	埼玉県立芸術総合高等学校
7	飢餓の世界	岡田　竜磨	東海大学付属翔洋高等学校
8	共に	映像メディアデザイン表現コース　3 年　中浦　奏	京都芸術高等学校
9	My Family	村上　晴砂	東海大学
10	ビー球	野口　哲郎	麻生情報ビジネス専門学校
11	You Are Not Alone ～ 1 人じゃない～	映像メディアデザイン表現コース 3 年　西村　悠	京都芸術高等学校
12	手をつなごう ～世界～	心理・応用コミュニケーション学科　阪井ゼミ	北星学園大学　文学部
13	表と裏の世界	西元　崇	文教大学
14	大切な・・・	中村　咲未華	広告デザイン専門学校
15	12.5	OGM	茨城大学　人文学部
16	「WATER POLLUTION」	南端　紘光	埼玉県立芸術総合高等学校
17	World Peace	京都橘高等学校　3 年 4 組	
18	明日へつなぐ（アシタヘツナグ）	京都市立洛北中学校　美術部 1 年生	
19	分別！！！	林　武志	名古屋市立工芸高等学校　情報科
20	見つめよう	桂田　都美紀・堀　陽子	同志社女子大学
21	Take a look / 見つめよう	Ref	立教大学
22	どっちもかけるね	川口　葵	東京工芸大学
23	地球再生ソフト	高木　玲良	熊本デザイン専門学校
24	気付いてほしい	映像メディアデザイン表現コース　3 年　大野　ほのか	京都芸術高等学校
25	help each other	川口　葵・彦坂　友美	東京工芸大学
26	水は大切に	弥富市立日の出小学校　6 年梅組 3 班	
27	WORLD’S HOPE	岡田　柚紀	京都精華大学
28	Wait!!!	キャンパスナビゲーター	滝川第二中学校・高等学校
29	違うのは、うまれた場所だけ。	井ヶ田　紗季・遠藤　陽香・吉野　美和	城西国際大学　メディア学部
30	@earth	飯村研究室　ムービー制作部「彩」チーム B	熊本県立大学

入賞作品　No.1～10

1 「Can you see them? ~ 心の目を持とう~」
熊本県立大学 飯村研究室 ムービー制作部「彩」チーム A



多くの問題を抱える地球で暮らす私達ですが、その根源である小さなことが見えていないのではないかと思いました。
身近な課題に気づき行動できる“心の目”を持った地球市民が増えてほしいという思いを込めて作りました。

2 「自分から行動しよう！」
福岡県立大宰府高等学校　映像メディア１班

最近、環境問題への意識が薄れてきていると思います。
若い世代が環境問題に向き合いきれていない現状をテーマに、もっと関心を持ち、身近な事から行動出来る人が増えてほしいという思いを込めて制作しました。

3 「Save Our Planet」
立命館アジア太平洋大学　APU MOVIE MAKER

この作品では「地球資源の大切さ」を表現しました。
消費され続けている資源を守っていくために、今私たちが少しでもできることは何か、という思いを込めて制作しました。

4 「先生ちょっと後でいいですか？」
岩谷学園テクノビジネス横浜保育専門学校
情報ビジネス科　１年１組

制作にあたり話し合いをしましたが、なかなかアイデアが出ませんでした。
そこで、「自分たちは地球のために何ができるか？」と戸惑う等身大の状態からスタートし、考え、話し合ったプロセスそのものを映像化しました。

5 「オゾン」
駿河台大学　　森田　陽祐

花を守る少女の作品です。
紙に描いた絵で手描きアニメとして製作しました。
作画や編集など役割は決めていましたが、絵だけでも多くの枚数があり、それをひとつひとつ処理して動画にするのにかなりの時間がかかりました。

6 「So, What can we do now?」
埼玉県立芸術総合高等学校　　伊藤　大洋

現在、人類はさまざまなことに電気や水などを使い、そしてゴミもたくさん出しています。
地球の環境破壊 を少なくするため、どんな活動をしなければならないかを前提に、ワンシーンワンカットの動画を作りました。

7 「飢餓の世界」
東海大学付属翔洋高等学校　　岡田　竜磨

世界にはすべての人間が食べていけるだけの食糧があるものの、それが先進国に偏り、廃棄されています。
一人では解決できない飢餓問題も、無駄をなくせば減らすことができることを多くの人に知ってもらいたいと思い、制作しました。

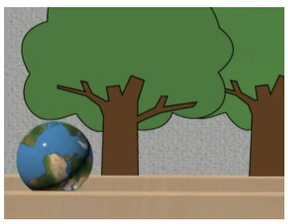
8 「共に」
京都芸術高等学校　映像メディアデザイン表現コース３年
中浦　奏

主人公と背景が時間と共に成長していくことを表現し、最後のシーンで「共存しよう」というメッセージを伝えるための作品にしました。
白黒の背景に投映されるように動くカラーアニメーションは背景の街の現状を表しています。

9 「My Family」
東海大学　　村上　晴砂

大人のエゴによって始まる戦争。
戦争はいろいろな物を破壊します。
住んでいる村や町、建物、農作物。
そしてそれは家族というかけがえのないものまで破壊します。
戦争によって孤児となってしまう子供たちがいるという事実を映像によって表現したいと思いました。

10 「ビー球」
麻生情報ビジネス専門学校　　野口　哲郎



ガラスのようにもろくてはかない地球の環境について映像にした作品です。
どんな国の人やどんな年齢の人が見ても分かるように、シンプルになるよう工夫しました。

入賞作品　No.11～20

11 「You Are Not Alone ～１人じゃない～」
京都芸術高等学校　映像メディアデザイン表現コース３年
西村　悠

多くの子供や大人に協力をしてもらい制作しました。
青や緑の地球にとらわれず、それぞれ個性ある色で地球を塗ってもらいました。
みんなで、これからの地球を作っていかないといけないという思いを込めています。

12 「手をつなごう ～世界～」
北星学園大学文学部　心理・応用コミュニケーション学科
阪井ゼミ

アフリカの貧困問題を、どの年代の人が見てもわかりやすいようにカラフルなイラストや挿し絵で表しました。
一つ一つの国がアフリカに手をさしのべ、最後に、「世界は一つである」ということを手をつないで表現しました。

13 「表と裏の世界」
文教大学　　西元　崇

並行している2つの世界を対比させ、2人の男性（サラリーマンと兵士）はそれぞれの世界の治安を、女の子はそれぞれの世界に対する子供への対応を、赤ちゃんはそれを見て育った子供の将来を示しています。

14 「大切な・・・」
広告デザイン専門学校　　中村　咲未華

地球温暖化と森林の減少に視点をおきました。
「ある日、自分の大切な人がいなくなってしまったら？」という設定で、失って初めて気づく大切なものを訴えました。
この問題についてもっと身近に感じてほしいと思います。

15 「12.5」
茨城大学人文学部　OGM

2015年までに、5歳未満の子どもの死亡数を1990年の水準の3分の1に減少させるというミレニアム開発目標について、達成へのバックアップをしたいという思いで作りました。
たった1分の間に12.5人の子どもが亡くなっているという点を強調しました。

16 「WATER POLLUTION」
埼玉県立芸術総合高等学校　　南端　紘光

環境汚染を食い止めない限り我々の安住が約束されることはないというテーマを込めました。
原発の惨状を見て、何としても訴えねばならないと使命感を抱きました。ピンクの水を使うことで、水質汚染の恐ろしさを表現することができたと思います。

17 「World Peace」
京都橘高等学　３年４組

自分より幼い子どもが地雷の被害を受けています。
この状況を変えるために私たちができること、それは平和な心を持ち続けることではないでしょうか。
1人ひとりの気持ちを集結させれば1つのものが出来上がると実感できた作品です。

18 「明日へつなぐ（アシタヘツナグ）」
京都市立洛北中学校　美術部1年生

美術部の1年生が作った映像です。
各自がつくったランナーが「あるもの」をリレーしていきます。
コンピューターではなく、ポスターカラーで絵を描くという、あえてアナ ログな方法でつくりました。

19 「分別！！！」
名古屋市立工芸高等学校 情報科　　林　武志

これは社会の中でのごみの分別について呼びかける作品です。
映像の中でも、ゴミ箱に空き缶を捨てるシーンに特にこだわり、何度も試行錯誤 を重ねてできた作品です。

20 「見つめよう」
同志社女子大学　　桂田　都美紀・堀　陽子

様々な環境問題により汚染され、傷つけ続けられている地球。
人はどこかで“自分一人が努力して活動しても、何も変わらないだろう”と思ってしまいます。
そんな自分を見つめ直して欲しいという思いで制作しました。

入賞作品　No.21～30

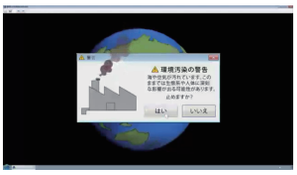
21 「Take a look / 見つめよう」
立教大学　Ref

私たちが普段使っている資源は、限りある物です。
しかし、それを当たり前のように無駄遣いする豊かな国の私達に警鐘を鳴らしたいと思いました。
明るい未来を創造できるよう、自分と地球を見つめ直すきっかけになればと思います。

22 「どっちもかけるね」
東京工芸大学　　川口　葵

現在、世界中で森林破壊が深刻化していますが、私たちにもできることはたくさんあります。
そこで「裏紙を使うことだけでも森林を守る第一歩になる」というメッセージが伝えられるような映像を制作しました。

23 「地球再生ソフト」
熊本デザイン専門学校　　高木　玲良



地球に対する関心が薄いと、エコへの関心も薄い。
地球の現状に関心を持つことが、エコ活動の第一歩だと思います。あなたの心にエコの心をダウンロードしましょう。

24 「気付いてほしい」
京都芸術高等学校　映像メディアデザイン表現コース３年
大野　ほのか

気づいていても中々行動できない人に、「あなたが行動すれば何かが変わるかもしれない。変えられるかもしれない。だから、その迷っている一歩をふみ出してほしい」というメッセージを込めて作りました。

25 「help each other」
東京工芸大学　　川口　葵・彦坂　友美

みなさんは困っている人を見かけたとき、声をかけることができますか？簡単なようで、なかなかできないものです。
それぞれが助け合っていくことで喜びが増え、人との繋がりが広がっていく。そんなメッセージを込めました。

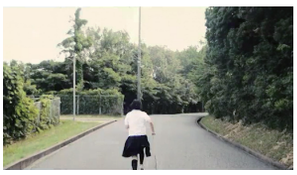
26 「水は大切に」
弥富市立日の出小学校　６年梅組 3班

水は大切です。しかし、なぜ大切なのでしょうか・・・？
私達が楽しく伝えたいと思います。

27 「WORLD'S HOPE」
京都精華大学　　岡田　柚紀

いま地球に何が起きているのか、見つめることが希望ある未来への第一歩に繋がるという意味を込めて作りました。
ぬくもりを感じられるよう、イラストや文字はすべて手作りしました。

28 「Wait!!!」
滝川第二中学校・高等学校　キャンパスナビゲーター



滝川第二中学校・高等学校は広大な自然に囲まれ、自然環境への関心も高いです。そのため、地球環境の保全を改めて考え、発信していこうと思いました。
今後、地球環境に対してどう取り組むのか、皆さんの心に響けば嬉しいです。

29 「違うのは、うまれた場所だけ。」
城西国際大学メディア学部
井ヶ田　紗季・遠藤　陽香・吉野　美和

遊びで射撃ゲームをする子供がいる一方で、生きるために戦う子供がいる世界。
それぞれ違う世界 で暮らす２人を出会わせ、見ている方に世界に目を向けてもらおうと考えました。
あなたはどちらの国の目線から世界を見ますか？

30 「@earth」
熊本県立大学 飯村研究室 ムービー制作部「彩」チーム B

若者に人気があり影響力も大きいとされる、Twitterをモチーフに制作しました。
身近に存在する小さな課題に気付き、行動することで、地球市民になっていく姿を描 き、小さなことでも地球を輝かせる力になるというメッセージを込めました。

unicef

公益財団法人 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）